
平成20年度 環境省 「エコインターンシップ プログラム」 企業のご担当者様向け説明会

～ 「環境のことを考えて働く」人材育成プログラム～

(東京会場) 平成20年3月14日13時30分～

於：こどもの城 904・905室

(大阪会場) 平成20年3月18日13時30分～

於：大阪府立女性総合センター セミナー室2

環境省エコインターンシッププログラム事務局
(社)環境情報科学センター

1. エコインターンシップ事業の趣旨

< 環境省 エコインターンシップ プログラム >

大学生、大学院生を企業の環境管理部門にインターンシップ生として派遣し、企業の環境管理に関する業務を体験してもらう事業

< エコインターンシップ プログラムの狙い >

- 学生に対する実践的な環境教育の場の提供
- 企業の環境管理の取組について、情報提供の促進
- 民官一体になった「環境のことを考えて働くこと」のできる人材の育成

1. エコインターンシップ事業の趣旨

< 企業側のメリット >

- 受入れた学生からの意見を通して、自社での環境管理業務について、第三者の立場からの意見を聞くことができる
- 学生の教育を通じて、社内でも「環境のことを考えて働くこと」のできる人材育成につながる
- 学生の教育の場と機会を提供をすることによる社会貢献となる

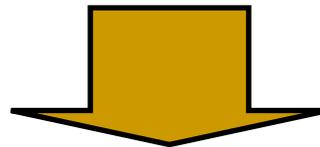
< 学生側のメリット >

- 学業の場では経験のできない企業の環境管理業務を、実際に体験することができる
- 「環境のことを考えて働く」とは何か、について自ら考え、実践することのきっかけとなる

1. エコインターンシップ事業の趣旨

エコインターンシップ事業にご協力いただくことによって、

- 社会経験が少ない学生に対して、企業の環境管理業務の体験を通して、環境問題についてより深く考えるきっかけとする



- 環境問題について、表面的な取組のみではなく、業務において実践できることは何かを、自ら考え、実行することのできる社会人の育成を目指す

2. 平成19年度エコインターンシップ 実施事例の紹介

- 7/25 : 説明会開催(企業・大学・学生向け)
- 7/25 ~ 8/17 : 受入企業募集期間
- 7/25 ~ 8/24 : 学生募集期間
- 8/31 : 事前研修(マナー研修、企業の環境管理について等)
- 9月上旬 : 学生の受入先決定
- 10月 ~ 12月 : インターンシップ実施
- 2/13 : シンポジウム開催
- 3/10 ~ 3/21 : 追加実施

様々な学部・専攻から
23名が参加

住友化学(株)
(株)村田製作所
旭硝子(株)
セイコーエプソン(株)
の4社が8名の学生を受入

(株)東芝セミコンダクター社が
2名の学生を受け入れ

住友化学株式会社

- 実施期間：平成19年10 / 22 ~ 11 / 2 (2週間)
- 受け入れ部署：本社 レスポンシブルケア室、
大阪工場 環境安全室
- 学生：浦井 泰奈 (大学院 海洋科学技術研究科1年生)
広瀬 淳哉 (大学院 経済学研究科1年生)
- 実施内容：大気汚染物質の拡散シミュレーションに関する業務
など



エコインターンシップ実績

実施スケジュール

10/22	オリエンテーション、住友化学のRC(レスポンシブル ケア)の説明
10/23	住友化学のCSRレポート、CSR2007編集委員会に参加
10/24	家庭部門での温暖化対策検討会、大阪工場へ移動
10/25	オリエンテーション、安全教育、環境保全活動の概要 METI-LISによる分析ワーク
10/26	ISO14001の解説、動力源室見学、省エネボイラー設備の解説 ISO14001 監査会議見学
10/29	環境関連設備見学(ガスタービン室、ガスエンジン、液中燃焼炉など) 住化分析センター見学、PRTR拡散シミュレーション(METI-LIS)
10/30	有機合成研究所・精密化学研究所・生産技術センター見学 大阪市ゴミ処理場見学、PRTRデータベース実習
10/31	生物環境科学研究所の概要説明、工務部ISO14001 監査
11/1	トップRC診断会議見学、下水処理博物館の見学
11/2	発表のためのまとめ作業、成果報告会

エコインターンシップ実績



株式会社 村田製作所

株式会社 村田製作所

- 実施期間:平成19年10 / 22 ~ 11 / 9 (3週間)
- 受け入れ部署 (2ヶ所):環境管理部、製品安全推進部
- 学生:大久保 洋之(大学院 基礎工学研究科1年生)
菅原 有紀(法学部3年生)
- 実施内容:企業のCSRレポートの比較調査業務
製品に含有する化学物質のサプライチェーン管理
体制の構築に関する業務 など



エコインターンシップ実績



実施スケジュール(その1)

10/22	オリエンテーション、会社概要説明 本社見学/CSRの説明/化学物質管理の説明
10/23	環境管理部の業務概要説明、環境管理部受け入れ教育
10/24	担当業務の説明、CSRレポート等を利用したムラタの環境取組み把握
10/25	担当業務の説明、CSRレポート等を利用したムラタの環境取組み把握
10/26	環境取組みに関するムラタの強み・弱み整理、野洲事業所の見学
10/29	ミーティング見学・担当業務の実施
10/30	CSRレポート等を利用した他社の環境取組み把握
10/31	CSRレポート等を利用した他社の環境取組み把握
11/1	CSRレポート等を利用した他社の環境取組み把握
11/2	福井村田製作所見学
10/29	CSRレポート等を利用した他社の環境取組み把握 立命館大学との意見交換会参加、環境管理課ミーティング参加
10/30	成果報告会準備
10/31	成果報告会準備
11/1	成果報告会準備
11/2	研修成果報告会

実施スケジュール(その2)

10/22	オリエンテーション、会社概要説明 本社見学/CSRの説明/化学物質管理の説明
10/23	製品安全推進部の業務概要説明 製品安全推進部受け入れ教育
10/24	担当業務の説明
10/25	他社(国内メーカー)のグリーン調達の調査
10/26	他社(国内メーカー)のグリーン調達の調査、野洲事業所の見学
10/29	他社(国内メーカー)のグリーン調達の整理 他社(海外メーカー)のグリーン調達の調査
10/30	他社(海外メーカー)のグリーン調達の整理 他社(海外メーカー)のグリーン調達の調査
10/31	他社(海外メーカー)のグリーン調達の整理 他社(海外メーカー)のグリーン調達の調査、中間報告会
11/1	他社(海外メーカー)のグリーン調達の整理 他社(海外メーカー)のグリーン調達の調査、比較分析方法の検討
11/2	福井村田製作所の見学
10/29	他社とムラタの環境負荷化学物質の規制状況の比較分析
10/30	他社とムラタの環境負荷化学物質の規制状況の比較分析
10/31	成果報告会準備
11/1	成果報告会準備、課内報告会
11/2	研修成果報告会

エコインターンシップ実績



旭硝子株式会社

- 実施期間:平成19年11 / 5 ~ 11 / 16 (2週間)
- 受け入れ部署:本社 社会環境室、
千葉工場 安全環境室
- 学生:北 聖吾(経済学部経済学科3年生)
山添 愛(大学院 教育学研究科1年生)
- 実施内容:フロンの回収・破壊プロセスに関する業務 など



エコインターンシップ実績



実施スケジュール

11/5	オリエンテーション、AGCグループ概要説明、CSRと環境に関する法律について
11/6	化学物質管理について、CSRレポートの説明 各社のCSRレポート比較
11/7	鹿島工場に移動、鹿島工場概要説明、ビデオ 工場内見学、鹿島工場から千葉への移動
11/8	工場入構教育、千葉工場概要説明、工場内見学 化学品カンパニー環境安全室の取り組み、輸出貿易管理、REACH
11/9	化学品カンパニーの教育について、研修センターの説明 安全体感研修の説明、安全体感研修
11/12	化学物質管理、化審法及び安衛法 GHS、グリーン調達、環境・安全・保安
11/13	フロン破壊と再生技術
11/14	フロン破壊と再生技術
11/15	研修成果取りまとめ
11/16	研修成果取りまとめ、成果報告会

エコインターンシップ実績



セイコーエプソン株式会社

- 実施期間:平成19年12 / 10 ~ 12 / 21(2週間)
- 受け入れ部署:本社 経営戦略室 信頼経営推進部(環境担当)
- 学生:木場 智弘(教育学部環境教育専攻3年生)
町田 龍亮(大学院 システム情報工学研究科1年生)
- 実施内容:製造工程における化学物質管理業務 など



エコインターンシップ実績



実施スケジュール

12/10	(本社) インターンシップ概要についてのオリエンテーション エプソングループにおける環境活動の紹介
12/11	(工場) プリンタやプロジェクターの修理/リサイクルセンターの見学 製品含有/放散物質に関する分析測定の見学
12/12	(本社) エプソングループにおけるCSR活動の紹介 本社内環境施設見学、欧州法人とのミーティング参加
12/13	(本社) グローバル環境会議参加: 社外講師による講演会 グローバル環境会議参加: 各環境活動テーマに関する意見交換
12/14	(本社) グローバル環境会議参加: 環境戦略などに関する議論 グローバル環境会議参加: パネルディスカッション
12/17	(工場) 環境活動、グリーンファクトリー活動の見学 製品含有化学物質管理の実態見学
12/18	(工場) 工場の廃棄物管理/省エネ技術の見学 製品含有化学物質管理実習、XRF測定機の実習
12/19	(工場) EMS活動学習、他事業所とのテレビ会議 工場内の化学物質管理、クリーンルーム見学
12/20	(本社) 発表会資料作成、気候変動に関する社内勉強会
12/21	(本社) Kids ISOプログラム学習、発表会資料作成、発表会

エコインターンシップ実績



株式会社東芝

- 実施期間:平成20年3 / 10 ~ 3 / 21 (2週間)
- 受け入れ部署:セミコンダクター社 環境企画推進部
四日市工場 施設管理部
- 学生:高柳 一郎(大学院 環境・エネルギー研究科1年生)
古山 悠美(国際総合科学部 国際総合科学科2年生)
- 実施内容:半導体製品の製造時の環境への取組みや
環境マネジメントシステムについての学習 など

エコインターンシップ実績



実施スケジュール

3/10	オリエンテーション、会社の概要説明、東芝セミコンダクター社の環境取組説明 半導体に関する基礎講習、東芝グループの環境取組みについて
3/11	セミコンダクター社環境報告書及び製品の環境取組みに関する講習 東芝セミコンダクター社の化学物質管理に関する講習
3/12	半導体製品の環境アセスメント実習 事業活動(製造時)環境保全の実習
3/13	欧州環境規制に関する講習 半導体製品の環境アセスメント実習
3/14	事業活動(製造時)環境保全に関する実習 本社実習のまとめ
3/17	四日市工場への移動 工場概要、化学物質管理、環境報告書説明、半導体の前工程見学など
3/18	ISO14001取組みについて、環境影響評価説明、実習 環境監査(EASTER)実習(環境施設見学と現場監査実習体験)
3/19	環境測定についての実習、ケミカルセンター見学実習 実習まとめ(まとめ後に移動)
3/21	今回実習のまとめ、学生側発表会、ディスカッション

環境省エコインターンシップ シンポジウム

～「環境のことを考えて働く」どんな働き方ができるだろう?～

- 2 / 13 (水) 13時～16時 日本科学未来館「みらいCANホール」

- プログラム

- 基調講演:「環境問題の解決に向けて企業は何をなすべきか」
安井至 氏 (国連大学名誉副学長)

- 平成19年度エコインターンシップ プログラム活動報告

- パネルディスカッション

< パネリスト > 石野耕也氏 (環境省大臣官房審議官)

塩崎保美氏 (住友化学株式会社 理事)

ピーター D. ピーターセン氏 (株式会社イースクエア代表取締役社長)

村尾信尚氏 (関西学院大学教授、日本TV系列「NEWS ZERO」メインキャスター)

< コーディネーター > 草野満代氏 (キャスター)

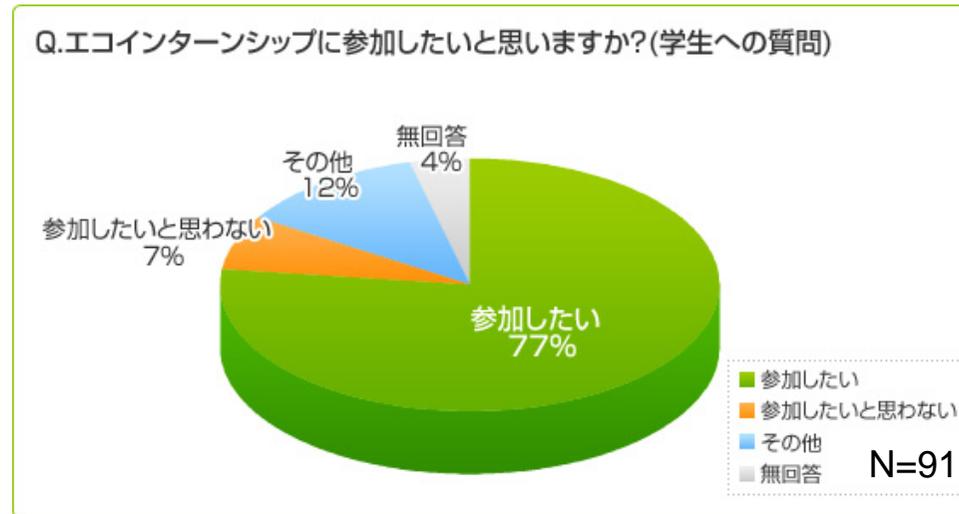


- 参加者: 約250名 (約半数が学生)

環境省エコインターンシップ シンポジウム

～「環境のことを考えて働く」どんな働き方ができるだろう?～

<シンポジウムに参加した学生のアンケート結果の一例>



<エコインターンシップに対する学生の意見(抜粋・一部改定)>

- 環境部門の仕事を実際に経験しておくことで、環境問題への対応を意識しながら仕事に取り組みると思ったから
- 企業に入社してからでは今感じていることを実際に声にすることが難しくなるかもしれないので、学生の立場で企業の取組に参加してみることで、現実を見てみたい
- データなどを見ても正直ピンとこない。実際に、体感することにより、厳しさを感じてみたい

3 . 企業の皆様にご協力いただきたい内容

< ご協力いただきたい内容 >

- 大学(院)生を企業の環境管理部門等にインターンシップ生として、2週間以上受け入れていただきたい

< 受け入れ企業の募集について >

- 募集期間: ~ 5月2日まで
- 募集する企業: 10社程度
- 派遣する学生数: 各社数名 (合計20 ~ 30名程度)
- 受入部署: 環境管理部門、環境安全部門、CSR部門等
(環境対策・環境管理を推進する部署)
- インターンシップ実施期間: 8 ~ 9月ごろ

3. 企業の皆様にご協力いただきたい内容

< インターンシップ生として参加する学生 >

- 原則として関東・関西地区に所在する大学の学生
 - ・ 大学2年生以上(満20歳以上、大学院生含む)
 - ・ 全ての専攻の学生が対象
 - ・ 企業の環境への取組に関心のある学生
としています
- 受入企業の就業規則や機密保持等に関する誓約書、覚書等を提出させます
- インターンシップ開始前に、事前研修(社会人としてのマナー教育、ならびに企業の環境管理の基礎的な教育)を行います
(事前研修: 7月末開催予定)

3. 企業の皆様にご協力いただきたい内容

< インターンシップ生の受け入れに要する費用等 >

- (費用) 受入れに伴う費用(交通費・滞在費等)は、原則として受入企業にご負担をお願いします
- (報酬) 本事業は、教育の一環であり、報酬の支給は原則として想定していません

< 保険の取扱い >

- 参加する学生には、「学生教育研究災害傷害保険」ならびに「学研災付帯賠償責任保険」(あるいは、それらと同等の内容が保障される保険)への加入を義務付けています。企業にご負担いただく必要はありません

< その他 >

- 学生の属性についての指定がある場合は、個別にご相談させていただきます

3. 企業の皆様にご協力いただきたい内容

< インターンシップカリキュラム >

学生のインターンシップカリキュラムは、平成19年度の実績を参考にして、受入企業の環境への取組を含めて構成してください。

< インターンシップカリキュラムの例 >

■ 社員向け環境教育プログラムの作成

環境に関連していない社員の環境に関する知識や意識を調査し、それらの社員向けの環境教育プログラムを作成する。

■ 社員向け環境教育プログラムの再検討

既に社員向け環境教育を十分に実践していると考えられる企業については、その教育内容が現状の環境問題やその認識に合致したものであるかどうか再検討する。

3. 企業の皆様にご協力いただきたい内容

< インターンシップカリキュラムの例 >

■ グリーン購入状況調査

社内の各部署についてグリーン購入の実践状況を調査し、実践状況が芳しくない場合には、グリーン購入促進のための社内マニュアルを作成する。

■ 環境への取り組み比較調査

同業他社で実施している環境への取り組みを洗い出し、インターンシップ受入企業の実践状況と比較する作業を通じて、今後、求められる環境対策について検討する。

■ 環境監査の第三者的評価

環境監査の実施状況について、第三者的立場から、適切に行われているか否か評価し、社員とともに改善点を検討する。

3. 企業の皆様にご協力いただきたい内容

< インターンシップカリキュラムの例 >

■ CO₂排出量の把握(未実施の企業の場合)

社内のエネルギー使用実態を調査し、CO₂排出量(総排出量あるいは部門別排出量等)を把握し、削減の可能性について検討する。また、将来に向けた排出権取引の基礎資料とする。

■ 環境情報の適性度調査

当該企業が発信している環境情報が、「環境表示ガイドライン」等に適合しているか否か調査し、不適合がある場合には、適合させるための方策について検討する。

■ 化学物質有害性情報収集

当該企業で新規使用予定の化学物質について、世界の情報源から有害性情報を収集し、使用可否判定の参考情報として取りまとめる。

3. 企業の皆様にご協力いただきたい内容

< インターンシップカリキュラムの例 >

■ PRTR対象物資の排出量比較調査

当該事業所と同業他社のPRTR排出量を分析し、製品等の範囲等の条件をなるべくそろえた状態(原単位化するなど)で排出量の比較を行う。

■ PRTR届出排出量の再検討

当該事業所で実施しているPRTRの届出について、その算出方法によるデータ精度を再検討し、より正確なデータを導き出す方法がないか検討する。

3. 企業の皆様にご協力いただきたい内容

< インターンシップカリキュラムの例 >

- 市民に向けた「SRI」理解のための資料(パンフレット)作り
世界的にSRI(社会的責任投資)がどのように展開されているかを調査(書籍、新聞、雑誌、ネット上の記事などを利用、現場のアナリストへのインタビューを通じて情報提供を受ける等)し、概略を把握した上で、現在日本において議論されているSRIの内容や運用状況等を調査する。アウトプットとして市民(大学生以上)のSRIに対する理解が深まるような資料(パンフレット)を作成する。内容は、SRIに関する基本的情報(導入の背景、メリット、デメリット等)から、SRIの必要性、国内での普及に向けた課題・問題点などをまとめ、さらに可能であれば具体的な提案を行う。

SRI

Socially Responsible Investment: 一般的に財務情報の他、コンプライアンス、情報公開、従業員への配慮、取引先の労働条件、地域社会への貢献、環境への配慮などを考慮して投融資を行う手法

3. 企業の皆様にご協力いただきたい内容

< インターンシップカリキュラムの例 >

■ 環境報告書の作成

企業内部に在籍した学生の視点から、現状の環境管理体制の整理等の作業を通じて、本社 - 現場全体を通じた企業の環境管理の実態について学習していただきます。その結果は、受け入れ企業が発行する環境報告書(あるいはCSRレポート)として活用されることもあり得ることとします

第1日	オリエンテーション、最新版環境報告書に関する質疑(本社)
第2日	環境管理方針、環境管理細則に関する学習(本社)
第3日	環境管理の実践状況の確認(本社)
第4日	製品企画部門の体験(製品開発、製品企画における環境配慮)(本社)
第5日	〃
第6日	生産部門の体験(生産現場での環境配慮、化学物質管理・排出実態)(工場)
第7日	〃
第8日	〃
第9日	成果の取りまとめ作業(必要に応じて追加情報収集)(本社)
第10日	成果の発表、受入企業の講評(本社)

担当者からの説明、会議や打合せの傍聴、作業担当者への同行等を通じて現場を体験します

3. 企業の皆様にご協力いただきたい内容

< インターンシップカリキュラムの例 >

■ 環境管理に関する国際的な動向への対応方法

製造業を対象に、環境分野における世界的な動向(例えばRoHS指令、REACH等の化学物質規制)について学習し、それらへの対応方法について体験します

第1日	オリエンテーション、最新版環境報告書に関する質疑(本社)
第2日	環境管理方針、環境管理細則に関する学習(本社)
第3日	取り扱い製品に関連する環境関係の法令や各種規制について学ぶ(本社) (例) 取扱い製品と関連する法令のまとめの表作成作業など
第4日	〃
第5日	〃
第6日	生産現場の体験(生産現場での環境配慮、化学物質管理・排出実態)(工場)
第7日	事業所における化学物質管理業務の見学
第8日	製品における化学物質管理業務の体験(工場)
第9日	成果の取りまとめ作業(必要に応じて追加情報収集)(本社)
第10日	成果の発表、受入企業の講評(本社)

担当者からの説明、会議や打合せの傍聴、作業担当者への同行等を通じて現場を体験します

4. 具体的な参加手続き方法

< 受入企業 >

インターンシップ生受入承諾書(資料1)、 受入企業表(資料2) を事務局に提出
近日中に、環境省エコインターンシップ ホームページにアップいたします

< 事務局 >

ホームページに「会社名」、「インターンシップ実施日」、「実施場所」、「研修カリキュラムの概略」等を公開 公開は4月上旬からの予定

< 学生 >

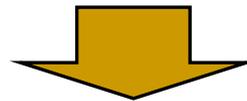
エントリーの際、第2希望までの企業を選ぶことができることとする
学生の募集は5月から開始

4. 具体的な参加手続き方法

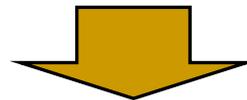
< 事務局 >

希望者が受入人数より多い場合、事務局が学生の選考を実施
(6月の予定)

選考方法 書類選考ならびに面接



選考結果から、学生の候補者を受入企業に通知



< 受入企業 >

学生の候補者を確認・承諾

4. 具体的な参加手続き方法

< 受入企業に提出をお願いする書類 >

- 5月2日までに提出
 - インターンシップ生受入承諾書 ……資料 1
 - 受入企業表 ……資料 2
- インターンシップ開始前までに提出
 - インターンシップカリキュラム表<案> ……資料 3
- インターンシップ開始前までに取交す書類
 - 覚書<案> (受け入れ企業 - 学生 - 事務局) ……資料 4
- インターンシップ終了後に提出
 - 実施評価書<案> ……資料 5

< 学生から提出される書類 >

- エントリーシート<案> ……資料 6
- 誓約書<案> (受け入れ企業あて) ……資料 7
- インターンシップ体験報告書<案> ……資料 8

5 . 平成20年度実施スケジュール(予定)

- ~ 5月2日(金): 受入企業募集期間
- 5月上旬: 学生向け説明会
- 5月上旬~下旬: 学生の申込期間
- 6月: 学生の選考・大学との調整
- 7月初旬: 学生の受入先企業の決定
- 7月末: 事前研修
- 8月~9月頃: インターンシップ実施期間(2週間以上)
- 冬: 成果報告会の開催

6. お問い合わせ先



< 環境省エコインターンシップ ホームページ >

<http://www.env.go.jp/chemi/kagaku/>

[ecointernship/index.html](http://www.env.go.jp/chemi/kagaku/ecointernship/index.html)

< お問い合わせ先 >

環境省エコインターンシップ プログラム事務局

(社)環境情報科学センター エコインターンシップ担当まで

〒102-0081 東京都千代田区四番町8-19 番町ポンピアンビル

電話: 03 - 3265 - 4000 FAX: 03 - 3234 - 5407

E-mail: ecointernship@ceis.or.jp